

エコニュース さって



第 92 号
令和 7 年 4 月 10 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

「令和 6 年度第 2 回市民環境講座・環境見学会」に参加して

報告 : 澤村

令和 6 年 11 月 12 日 (火) 環境見学会が開催されました。見学先は「ガトーフェスタハラダ 本社工場(群馬県高崎市) (以下、ハラダ工場と略す) (社名は榊原田)」と「埼玉県立川の博物館(埼玉県大里郡寄居町)」でした。立冬(11月7日)を過ぎましたが、地球温暖化(読売の朝刊で産業革命以前から平均 1.54℃情報の記事)の影響で日中は 20℃を超える汗ばむ中での開催でした。参加者は一般 23 名、スタッフ(さって市民環境ネット) 4 名、環境課 2 名でした。

総じて述べますと、「ガトーフェスタハラダ」は 1901 年創立(明治 34 年)で、和菓子製造業として発足してから、パン・洋菓子製造業に着手し、現在はラスクを始めとする、高級な洋菓子メーカーである。中堅企業(但し、従業員が 1,000 名超え)ですが、地球環境へは、エコアクション 21(国際標準 ISO14001 に対して日本の環境省管轄の中小企業対象の環境マネジメントシステムのガイドライン)に取組み、環境配慮をリードする企業でした。「川の博物館」は、歴史的な経緯と背景が分かり、自然保護・生物多様性面から改めて勉強しました。

以下、見学スケジュールと見学内容結果と筆者が感じたことを記す。

午前 9 時、バスでアスカル駐車場を出発し、車内研修の一環で環境課から、令和 6 年度エコライフ DAY 2024 結果の報告(参加者数が昨年度の倍になり、CO₂削減量は約 4.4 kg/人と



ハラダ工場の正面

2023 年度から決めた 1 日→1 週の中で 1 日としたこともあり大幅に増加との報告。さって市民環境ネットから年度事業計画及び車内に持ち込んだアカザ草木の特徴(1 年草で若葉の中心が赤紫色からアカザと云い若芽、若葉は和え物、茎が 2m 位になり、秋に枯れて木質化)と木質化したものは軽量で杖として販売(ネットで数万円、水戸黄門が使用したとの説?)されているとの報告があり、一般参加者は感心していた様子。

ハラダ工場に到着すると、工場正面が一見レトロ調洋風ビルで高級洋菓子製造業を思わせた。冒頭、講座室に案内されて、DVD による会社の事業概要、沿革の中で、学校の給食用パン、フランスパン、フランスパン

を基にラスク(原産はドイツ)等への洋菓子製造・販売業への経緯が説明された。ラスクは卵を原料に使わず、バターだけ使っているのが特徴とラスクに塗る材料によって多種類のラスクがあり、高級洋菓子として関東・関西を中心に全国展開しているとのこと。以下、DVD とネットの情報より、環境対策面では、「エコアクション 21」に全社を挙げて取り組んでいました。「かけがえのない地球を子供たちへ」をモットーに、「地域社会への貢献、共存」を経営の優先課題に、エネルギー自動計測システムを導入して、工場内の電力消費の「見える化」を実現し、



ハラダ工場の屋上ソーラーパネル

一方全ての店舗で同社の社員が直接製品販売していて、適切な需給バランスをとり、生産と連携させていて売れ残り品を最小にしている。製造中に出る食材クズ類は家畜の飼料やペットフードの材料等にして、衛生状態を保持しながら必要とするお客に引き渡して活用されている。また、節水の推進、廃棄物関係も油脂や乾燥汚泥、廃プラ、不燃物の削減と共に分別・廃棄している様子。

上記の様に、省エネ・省資源の推進、二酸化炭素や廃棄物の排出量を削減するとともに環境負荷削減、更に社員の環境意識向上、コスト削減などを進め、持続可能な社会の実現に貢献していることが分かりました（出典：一部、ハラダ工場のネット情報）。

DVD映像を見た後、工場内に案内され、ラスク製造工程を窓越しに見学した。最後に施設内製品販売があり、参加者が好みのものを購入しました。また、おみやげにラスクも頂きました。

衛生面は、従業員が工程に入る際は、エアシャワーを通り、決められた服、マスク着用、髪の毛を隠した帽子をかぶり、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）が徹底されていました。

なお、工場の駐車場には数台の観光バスや多数の乗用車が駐車していて、当工場が観光・見学スポットなっていることを知りました。

昼食は、バスで移動し、「ふかや花園プレミアム・アウトレット」で各自好みの食事をした。

午後は、バスで15分移動して大きな水車を正面に特徴づけた「川の博物館」に到着。

玄関ホールで簡単な説明を受け、各自施設内を見学しました。県直営の施設で“江戸時代から現代までの変遷を映し出した歴史館的なイメージ”がした。周囲に池があり魚が泳ぎ、また昔の懐かしい水車利用の米つき小屋、初めて知ったコンニャクづくりの小屋があった（水力使用の再生可能エネルギー）。館の中に入ると、あちこちで女性、男性の説明役がいて、山、川、特に荒川の歴史、高瀬舟、鉄砲堰、いかだ流し等の歴史物に、また生物多様性維持のために、野生の生き物の写真展示やはく製、木の実等に示唆させるようでした。

例えば、荒川の変遷には、詳しいDVDや展示があり、荒川の源泉は秩父、利根川の源泉は群馬で、越谷辺りで合流して東京（江戸）湾に流入している。武田信玄の施政として洪水が絶えなか



製造工程の窓越し見学

った盆地に土手(堤)を上手く作り、水を制御して水田開発して甲府を豊かにしたことを思い出しました(金山もありましたが)。

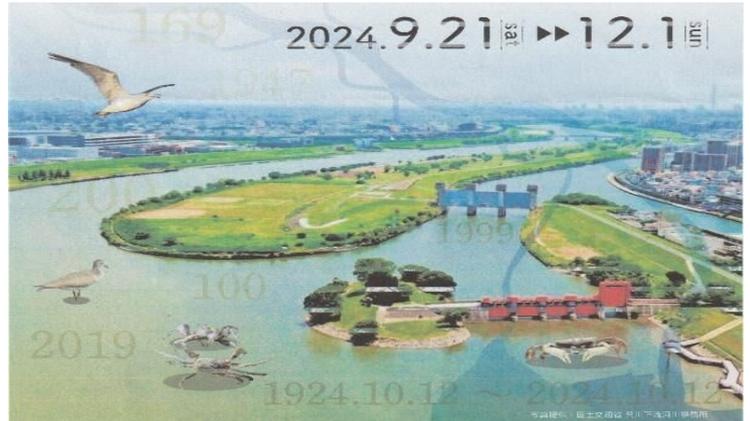


川の博物館 正面の大きな水車

しかし、明治になって、荒川の大洪水があり、明治時代から昭和時代にかけて大工事を行い、荒川(江戸に入ると隅田川と名称が変わる)を荒川放水路と隅田川に分離した。工事後、100年間一度も洪水は起きてないとのこと【DVDの詳しい説明】。

最後に、一般参加者の何人かに聞きましたところ、「大変勉強になり、そして楽しく、こういう見学会でしたら来年も参加したい」と好評でした。スタッフの著者にとっても2カ所とも有益な情報を得ることができ良い研修会だったと思いました。有難うございました。

また、徳川家康は豊臣秀吉から江戸に封じられ、昔は関東の東部地域は遠浅の海岸(多方面で貝塚あり)、大湿地で洪水が絶えなかった。そこで、徳川氏が、人手で大工事(家康が着手)をして利根川を分離して銚子向け(現在の利根川)と江戸川を造り、東部地域に水田造成開発をして江戸の繁栄に結びつけた。



東京都北区岩淵水門：赤の旧水門と青の新水門
(左側が荒川放水路、右側が隅田川)
出典：ネット情報

子育て応援まつりに参加して

報告：坂本

今年の子育て応援まつりは、12月8日(日)ウエルス幸手で行われた。さって市民環境ネットとしては、紙芝居、おさかな釣り、とんとん相撲、アンパンマン・バイキンマンのジグソーパズル、いと電話づくりを用意して、子供たちと遊びました。環境ネットコーナーを訪れた子供たちは約90人、子供たちが各々の自分のペースで遊んでくれました。

紙芝居では、お話の中にはいり、熱心に聞いていました。まるで自分が物語の中の登場人物になったように、ハラハラドキドキ、紙芝居の中で体験しているようでした。



紙芝居のお話に聴き入るお友だち



お目当てのおさかなを釣りました

おさかな釣りは、さかなの口先に金具のピンがついてあり、釣り竿の針の部分に磁石がついています。要領が分かれば、全部のおさかなを釣るお友だち、小さなおさかなを釣るお友だち、大きなおさかなだけを釣るお友だち、一度は違う場所に行っても、何度も戻ってきて、おさかなを釣るお友だち、どのお友だちもそれぞれ楽しんでくれました。

とんとん相撲は、お相撲さんを折り紙から作るのが最初です。自分でお相撲さんをつくるのは楽しいようです。つくった後は、お相撲さん同士での戦いです。土俵をたたき、どちらが勝つか、勝負、勝負。勝つまでやるぞ！



お相撲さんの折り紙、楽しい！



アンパンマン・バクマンのジグソーパズル

今年もさって市民環境ネットとして子どもたちが中心の子育て応援まつりに参加することができ、スタッフ全員喜んでいきます。ありがとうございました。

【会員募集中！】環境保全活動を一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕

★ 問い合わせ先；渡邊貴祐（わたなべたかひろ・代表）まで TEL 0480-44-9776

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく